

研究主題

主体的に判断・行動し、他者によりよく生きようとする児童生徒の育成

三校共通の重点

自主 自律・思いやり

児童生徒の実態

- 素直で明るい。
- 気持ちの切り替えが早い。
- 決められたことに一生懸命に取り組むことができる。
- 友達の考えをしっかりと聴くことができる。
- 地域の行事や活動に積極的に参加することができる。
- ▲自分で考えて行動する力が弱い。
- ▲自己肯定感が低い。
- ▲挨拶、返事などその場に合った適切な対応ができない。

六合地区小中連携教育

【根幹となるもの】

- ◆9年間で児童生徒を見守り、育てる。
 - ・義務教育9年間を見通し、児童生徒の学習・生活状況を相互に理解し、小中が一貫した指導を行う。
 - ・学力親や指導親を共有し、確かな学力の定着と一人一人の個性や能力の伸長、豊かな心の育成を図る。
- 【主なねらい】
- ◆児童生徒が安心して学習や生活ができる環境及び体制をつくる。
 - 3校の教職員が「三校共通の重点」及び道徳の授業改善の方向性を共通理解し、道徳の授業を核とした教育活動全体を通じた道徳教育の推進に取り組み、児童生徒に確かな学力、豊かな心を育む。
- ◆六合地区の特色を生かした道徳教育を推進する。
 - 3校で共通した取組を行ったり、三校合同研修会において実践を持ち寄り学び合ったりする。
- ◆教員の指導力向上を図る。
 - 三校合同研修会、小中学校教員による授業参観、生徒指導連絡会等を通して、道徳の授業改善、児童生徒理解を深める。

目指す児童生徒の姿

- ◎自ら考え、行動することができる。
- ◎他者と進んで協働することができる。
- ◎よりよい人間関係を築くことができる。

研究内容

- (1) 児童生徒が主体的に考え、議論する道徳の授業を推進する。
問題を自分のこととして考え、議論する道徳の授業を9年間積み重ねることで、適切に判断し行動する力を培う。
- (2) 人との関わりの中で、自主自律・思いやりの心を育む。
学校、家庭、地域等で人との関わりを大切に道徳教育を推進することにより、自主自律・思いやりの心を育む。

研究組織

六合小中連携推進委員会

六合地区三校合同研究推進委員会

連携研究部

- 家庭・地域との連携推進
 - ・学校だよりの道徳コーナー及び学校ホームページ
 - ・親子道徳
 - ・情報発信
- 道徳教育の効果検証
 - ・児童生徒、保護者、教員の意識調査

授業研究部

- 考え、議論する道徳の授業づくり
 - ・授業づくりの視点の設定
 - 「ねらいの明確化」「発問の吟味」「自己の振り返りの充実」
 - ・三校合同授業研究会の実施
 - 授業研究、講演会の実施

実践研究部

- 道徳の時間と各教科等との関連的指導の工夫
 - ・道徳教育全体計画、別葉、年間指導計画の作成と活用
 - ・「私（わたし）たちの道徳」の活用
 - ・和文化教育との関連